

半夏生

佐田暢子著



福岡県大牟田市出身で元小学校教員の著者による短編小説集。表題作「半夏生」は、両親の法要のために久々に帰郷した中年の主人公が、かつて中学生最後の年に級友と起こした「事件」に思いを巡らす物語だ。

「三池炭鉱は、題材にするにはあまりにも大きすぎ、重すぎる。だから、表面をナイフで削り取るようにしか書けなかった」。著者はあとがきにそう記す。だが炭鉱住宅、労働争議など、主人公の郷愁の中によみがえる大牟田の「あの時」は、読者にもくっきりと強い印象を残す。

(本の泉社・2400円)